

「手が震える、低血糖だ。何か甘い物を・・・」

— 実業家への転身を謀るも糖尿病に阻まれたゴッドファーザー —

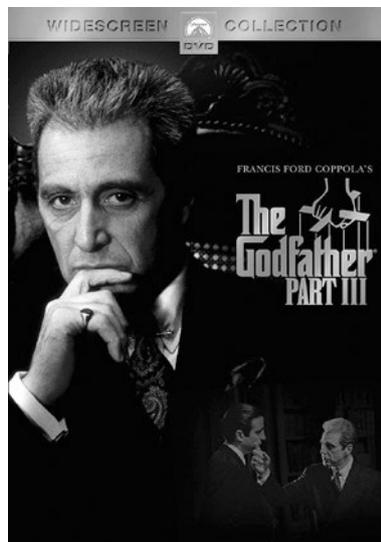
映画・健康エッセイスト こもり 小守 ケイ

第2次大戦直後のNY。イタリアから移民し暗黒街で成り上がったマフィア・ファミリー、コレオーネ家の三男マイケル（A・パチーノ）は家業に批判的な数学専攻の大学生で、父の初代ドン（M・ブランド）に抗って戦争に志願し、軍功を挙げた“良き米国青年”。「将来は知事か上院議員に・・・」。そんな彼が恋人のWASPの善良な女性、ケイとクリスマスを楽しんでいた時、父が敵対マフィアの銃弾を浴びる・・・。

家族を守るため、非情で残忍な剛腕マフィアに

「パパ、僕が守ってあげる」。重症の父の病室。マイケルは父への愛情から自分を偽り、復讐を決意。報復後は一家の故郷シチリアに身を隠し、2年後、長兄が抗争で殺されると父に呼び戻される。NYではケイに「5年で裏社会と手を切る」と約束して結婚、事業の合法化を胸に父の仕事を手けるも、4年後、父の老いと共に家族やファミリーのため35歳でドンを継ぐ。「まさか、お前が・・・」。

切れ者でやり手のマイケル。罪悪感を押し殺して抗争を制し、事業の正業化のためラスベガスでホテル経営に乗り出す。しかし一方では、事業の障害の“家族内の裏切り者”、次兄と妹の夫を手下に殺させる。「もう耐えられないわ」。ケイと子供達が出て行く。愛する者を失った孤独と自責、血と暴力の日々に侘しい食卓、酒、煙草・・・。そのストレスや苦悩を仕事への執念で埋め合わせ、身を粉にして事業拡大に奮闘するも、哀しいかな糖尿病の影が忍び寄る・・・。



発売元：パラマウントホームエンタテインメント
ジャパン株式会社
©1990 by Paramount Pictures.
写真：2代目ゴッドファーザーのマイケル

「足を洗えるかと思ったら、逆戻りだ・・・」

「コレオーネ氏に祝福を」。60歳頃、ローマ法王から叙勲も受け、実業家としての地位と名誉を手に入れた。20年ぶりにケイや息子、娘とも会った。しかし、長年の夢だった事業の完全合法化の寸前で、カジノ撤退のため他マフィアに渡した手切れ金への不満から再び抗争が勃発！落胆した彼は、その夜、突然の心筋梗塞に襲われ、以後はインスリンを手放せない。

健康不安を抱えながらの欧州進出。枢機卿にバチカンの援助を求めるも、緊張からインスリン治療の副作用の低血糖を起こし、傍らに倒れ込む。「何か甘い物を。糖尿病を患っていて・・・」。

ジュースを貰って一息つくが、懺悔を勧められると、長年秘めてきた実兄殺しを告白してしまう。病気で気力が萎え、時に判断不能にも陥る彼はドンの座を甥に譲った。

残ったのは病気と孤独

「眼が霞む・・・」。引退後のシチリア。糖尿病の合併症の視力障害が進行し、サングラスの色が濃くなり、インスリンを腹に打つ姿も剛腕マフィアの面影ないが、マフィア稼業の因縁で再び命を狙われる——オペラ歌手になった息子のデビューの日、ケイや娘と連れ立った彼に銃弾が！それは不運にも娘の胸に命中した・・・。

最晩年のマイケルは黒いサングラス、白髪、

映画「ゴッドファーザー」3部作

F・コッポラ監督、72～90年、米

皺、手のシミ、丸い背中。広い庭で一人孤独に陽だまりの中、突然、椅子から崩れ落ち、息絶える。父も孫と遊んでいる最中に急死した場面を想うと、父子とも糖尿病の動脈硬化で心筋梗塞を起こしたのであろう。享年79歳。

Cinema View

バイオレンスを背景に情感たっぷりに家族三代を描いたF・コッポラ監督の出世作。世界中で愛される娯楽映画で、かつ巧みな展開、卓越した人間描写、美しい映像や音楽等で“不朽の名作”と評されるため、本作中の場面や台詞が現在も他映画やTVドラマ、ゲーム等でパロディーにされる。今や共に名優中の名優A・パチーノとR・デ・ニーロ（青年時代の初代ドン役）の若き日の瑞々しい演技が眩しい！



インスリンに低血糖はつきもの

インスリンは1921年にカナダのトロント大学のバンチングとベストにより発見された。翌年治療に使われて劇的な血糖降下作用を収めたため、翌々年にノーベル賞に輝き、来年で100周年を迎える。その間、様々な糖尿病治療薬が開発されてきたが、今もインスリンは最も強力で確実な治療効果のある薬物であることに変わりはない。

インスリンは、血糖を肝臓や筋肉、脂肪細胞に送り込むことによって血糖降下作用を発揮するが、血糖を強力に低下させるため、必然的に副作用の低血糖が避けられない。低血糖が生じると、血糖値を急速に上昇させるため、カテコラミンやグルカゴンなどの昇糖ホルモンが分泌される。低血糖の初期に動悸や震え、冷汗などが生じるのは、カテコラミンの交感神経刺激作用のためである。血糖がさらに低下すると、血糖を栄養源とする脳神経細胞機能が低下するので意識が低下し、放置すると低血糖昏睡に陥る。

インスリン注射や経口血糖降下薬を服用していて低血糖症状が起きた場合は、速やかに砂糖かブドウ糖を摂取し、血糖を上昇させる。低血糖は、軽度でも脳機能が低下し認知症になりやすいので、予防が重要である。また、高齢者は、経口血糖降下薬の服用で慢性的低血糖が起りやすいので、認知症と思われていた高齢者が服薬を中止すると、認知機能が回復することがある。

監修

公益財団法人
結核予防会 理事
総合健診推進センター 所長

みや ざき しげる
宮 崎 滋